

県外派遣報告書

審判員名	森下あずさ	所属	社会人
大会名	2019年度(一社)日本社会人バスケットボール連盟 関東ブロック審判研修会		
期間	2019年8月17日(土)～8月18日(日)		
会場	所沢市民体育館		
スケジュール			
期日	内容	場所	
8月17日(土)	講義	所沢市民体育館	
8月18日(日)	実技	所沢市民体育館	
講義内容			
<p>◆3PO Basic…針生淳男氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3POのメカニックについては、クレー間で齟齬があってはいけない。判定に関するミスは、多くがクレーのメカニックに起因している。プレゲームカンファレンスで同じ理解ができていないか。 ・LとTでベストアングルを作る。Cは見えない所をカバー ・各自でコートを書いてプライマリーエリアを記入する→特にLのエリアについて、ペイントエリアと3Pラインのどこからどこまでがエリアなのかがわかっているかがポイント <p>【リードメカニック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・45度のアングルを保つ。リングの先端が見えているか？見えていない場合はコートに立った時に確認をしてみる。 ・ノッキングはクレー全体のリズムを崩し、クレーワークに重大な影響を及ぼすことがある。ローテーションでミッドラインを超えたらローテーションを完成させる。これもクレーワークの1つ。 ・ショットクロックが残り5秒を切ったら、基本的にはローテーションは行わない。ただし、EOQ、EOGでpick screenが起きてCがタイマーとラストショットなど全てを見なければいけない場合はローテーションを実施する。 <p>【トレイルメカニック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スローインされたボールの後ろから必ず追従する。プレーが大きく見えてしまうので近づきすぎず、適切な距離を保つ。 ・バックコートからフロントコートにボールが運ばれるときは、8秒の管理を行いながらフロントコートで起きているプレーを把握しておく。 <p>【センターメカニクス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Cも8秒をカバーする。 ・バックコートでプレスがない場合はC to Cは走って移動して準備をする。 ・Cross Stepはオープンアングルの状態からプレーにピークするイメージ(覗き込まない)。 <p>Cross Stepは1歩や半歩のシンプルな動きが理想。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CサイドのハイレベルアタックはL主導で行うので、Lが来るまではハイセンターでポジションをキープ。Lが動いていることをクレーで理解をする。 ・Cが決断すべきケースで決断しきれない時は、プアメカニクスに起因している(チェックアウト出来ない) <p>【3PO全体のカバレッジやファンダメンタル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リバウンドの際は、自分が捉えるペアを決めて1人1～2ペアを持つ。 ・プレイ再開時に、次に起こるプレーを1つでも2つでもよいので予測してボールを渡す。 ・ショットクロックとゲームクロックの管理は、どちらが先に成立するか意識しておく。 ・デッドボールオフィシエーティング→ボールがデッドになっている時、コートで起きることは一人でもよいので把握しておく。 			

◆プレコーディングガイドライン 20190801最新版の説明…北沢岳夫氏

・悪い手の整理→始まりがどちらかを把握する。そのプレーによってどちらにどのような制限が生まれたのか。何が原因でDEFの手が絡んだのか、OFの手が絡んだのかを把握しておく必要がある。

・イリーガルスクリーン

クリップ1: Cプライマリーエリアではあるが、Tプライマリーアングルでもある。PGCで共有しておく信頼関係を崩さないことになる。

クリップ2: Cサイドで行われるプレーはプレイヤーとの距離が近い分、プレーが大きく見えがち。そういう見え方を知っておく。

・ブロックorチャージ: オフェンスに明らかな責任がない大きな触れ合いはディフェンスファウルを強く意識する。

・プロテクトシューター: ディフェンスプレイヤーに悪気がない触れ合いもあるが、シューターにとっては大きな怪我に繋がる可能性があるため、シューターを守るためにコールする。小さな触れ合いではあるが影響が大きくなるということを忘れない。

・UF

C2: ポンプフェイクに引っかかってしまったプレイヤーの触れ合い全てがC2になるわけではない。その後プレーがどうなるか見極めて判定する。

・TF

クルーがプレイヤー、コーチに近い距離で言われていたら違うクルーが吹くことも大切。

実技

担当試合	期 日	8月18日(日)	男子	
	対戦カード	SEVEN STARS VS	小西安	CC
	相手審判	U1: 上久保 顕氏(東京都) U2: 三浦 丈太氏(群馬県)		

ミーティング内容

主任

嶋崎 貴氏(東京都)

・1ゲームを通してクルーワークがよかった。

一人のクルーがチャージングをコールしたら、違うクルーも同じプレーがあったときにチャージングをコールしていたのでSame play、Same judgeができていた。もしこれが偶然だとしたらこれからは意識をしていくように。

・これからはPlayers Centerという意識になる。今まではPlayers Firstだったが、playerを中心にゲームを考えるということになる。

・ショットクロック、ゲームクロックの管理についても一人ひとりがCCメンタリティを発揮して、自分の持っている情報で正しく訂正することができていた。

・ハイポスト付近で起きたブレイジのケースも、より多くの情報を持っている(プレーを始めから捉えられている)クルーが判定をしてコールできていた。

全体の感想

今回の研修では初日に講義があり、メカニクスとガイドラインの解説をしていただいたので、次の日の実技でクルーで共通理解をもってゲームに臨めたという印象がありました。実技ではタイムアウトやインターバル間に、今起きていることとこれから起きそうなことを3人で情報共有していたので、コミュニケーションもとれていたと思われます。実技研修では、その時その時の自分の役割を理解してCCメンタリティを発揮していくことが円滑なゲーム運営につながることを改めて認識しました。

最後に、今回の開催にあたりご尽力いただきましたJSB関東ブロック審判長をはじめJSB派遣講師のお二人方、東京都社会人連盟の皆様、派遣していただきました埼玉県社会人連盟の皆様にご感謝申し上げます。

今回の貴重な経験を少しでも県内にも還元できますように努めていきますので、これからもご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。